

同窓会報

NO.47
2004.3

発行 — 〒992-0039 山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会 事務局 TEL 0238-22-0091 FAX 0238-22-0092 <http://www.kunori-h.ed.jp>

**本質の
変わらない教育を**

校長 九里廣志

百周年を過ぎ、数年経つ。今こそが、本校の教育にとって、とても大切な時期と私は思っている。

日本の教育はとても変わった。特に最近は、精神的な理想追求や禁欲を是とする考え方をそつちのけにして、子供たち

を詠の分からぬ大人の世界に踏み込ませ、金欲や物欲の亡者にしている。社会の価値基準は数値化し、結果が全てに優先。経済成長時代までの「頑張って…」でもなく、「強引に」「見つからなければ（見つかっても捕まらなきや）」の発想が、至る所に蔓延してきた。社会だけではなく、教育界も例外ではない。

応募してくる生徒に、同窓生のお孫（曾孫）さん、お子さんが多い。そして、「母親の楽しかった高校時代の話を聞い



て…」と直接で語る子供たちのいかに多いことか。常に崇高な理念で、手塙にかけて生徒を育てる本校の教育。単なる結果を求めるのではなく、努力する過程をも評価する教育。こんな教育がまだまだ求められているのだ。先日、学園長が『ペスタロッチ教育賞』を受賞した。一番嬉しい受賞だ。私一人の受賞ではなく、私と共にあつた全ての教師・生徒たちのおかげだ。との言葉が、本校教育を言いい表しているように思う。

新しい風 —男子会員に期待—

同窓会長 竹田力ツ

同窓生の皆様には、御元気にお過ごしのことと思ひます。しかし、相変わらずの不況と、世相の乱れに色々と御苦勞も多い事と思います。そんな中で嬉しいお知らせを致します。母校の学園長先生が、教育者にとって最高の賞と言われる、ペスタロッチ教育賞を受賞なされたのです。教育が問題視される中で、優れた教育、母校の礼と譲の実践を地道に進め、教育の原点を示して来られた学園長先生の強固な精神と英智と英断によるものと思います。十二月十五日、先生の講演

会と祝賀会を致しました。同窓会にとつてこの上ない喜びであり、改めて同窓生である事に誇りを大にした方も多いかと思います。

生徒の皆さんも元気一杯で体育面や、音楽、又美術で素晴らしい活躍をなされている事は、嬉しい限りです。

さて、同窓会にも男子が入会して三年になります。総会にも新しい風が吹いて来ました。六月の総会には是非御参加いただき、青春の日に思いを馳せ、新しい風にも触れていただきたいと思います。お待ち致しております。

三十八回目の記念音楽会は津軽三味線で、新田親子のコンサートでした。三年前も同じ津軽三味線でしたが、それぞれの持ち味があり、今回もかなり楽しめました。

先日、雑誌に新しいジャンルへ果敢に挑戦している若手演奏家として、息子の昌弘氏が載っていました。三味線は、日本の風土を土台として生まれたのですが、世界に発信できる楽器であることを再認識しました。

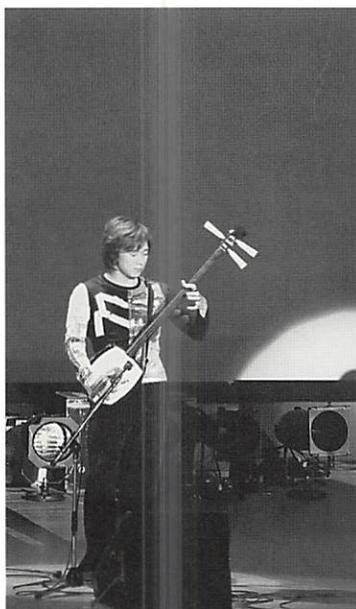
私は、三年前より細棹で「端唄」を習い楽しんでいます。弦とバチの動きがなかなかうまく出来ませんが、こういうコンサートで演奏を聴き、勉強していきたく思っています。

三味線はバチで叩くといいます、が、叩く音が邪魔にならずむしろ心地よいのは、テクニックがすばらしいからだと思われます。中ほどの二人羽織で、父がバチを息子が弦を担当した演奏がありました。が、会場から割れんばかりの拍手が起きました。また、三味線で弾くベンチャーノの曲は、その人の感性が音色に反映されてかなり胸に響きました。目をつぶつて聞いてみるとエレキギターかなと思ふほどでした。



津軽三味線は エレキか？

水野とも子 (S44年卒)



が、ドンコ型の母の出現でうまくコーディネートされていました。はじめりは「津軽の響き」で、津軽の風土を象徴するような曲でした。そして、「じよんがら」「あいや節」と親しみや



生徒と一緒につくる
九里祭

二〇〇三年の暑い夏の日、さわやかな制服の九里生に紛れて私服の集団が活動していた。あの五名は卒業生。

図書委員の九里祭の展示に、我々も参加させてもらつたのだ。卒業してはあの祭りの巻き込まれていくようなスピード感はないかなか味わえない。私達はひたむきさを思い出していた。(H十五年卒 石井亜沙美記)



ペスタロッчиは、1746年、スイスの生まれ（上杉鷹山と同時代）です。彼は、個人自らが向上するのを援助することが社会全体を改善できると気付き、「貧しき者の家」を創立し、孤児たちを教え始めます。ここで、子供たちの個性をよく観察した本が書かれます。

子供の能力を伸ばすには環境が大事、ものの観察、子供の直感が大切等の教育論で、学校は有名になり、ヨーロッパ各地から続々見学者が押しかける状況になります。全生涯を貢献した人の教育のために捧げたことからペスタロッчиは、世界最高の教育者といわれています。

『ペスタロッчи教育賞』 を受賞して

学園長 九里茂三

私が「ペスタロッчи教育賞」を受賞した事について、学園関係の方々が喜んで下さいました。それが事のように喜んで下さいました。そのうです。この賞はわが学園のみんながいたいたのです。私と共にそれこそ生涯をかけて一緒に頑張って下さった教職員、そしてその働きかけを「純真」で受けとめて下さった生徒さん達との、深いつながりが挙げた成果が評価されてのことなのです。

ですからその「報告会」とそれに続く「祝いの会」には、学園関係者、父母や現旧教職員、同窓生と、我々の教育に関心を寄せて下さっている地元の教育人、

それに、私の青春と共にあつた興譲館の当時の教え子たちなどに集まつてほしかったし、正にそうなつた事を何よりも喜ばしく思いました。それはかつてのどの賞よりも嬉しい受賞でしたから、私は挨拶の中で、つい「もう死んでも悔いはない」と申したのでした。でもすぐに思い直して「やつぱり死ぬわけにはゆか



広島大学大学院にて 2003.11.10

勿論、こうなつたについては、私ども年輩者に多くの責任があります。それは正に日本国が経験した事の無かつた「敗戦」に関わる事が多かつたからです。特に戦争を戦つた世代が、それまでの生き方に自信をなくし、占領軍の意のままに日本社会の良き伝統が根こそぎ廃棄された事に原因があつたと思います。

一つには「家庭」の崩壊です。伝統を支えるのは家庭ですから、伝統の廃棄と共に、家庭が壊れてゆきました。集団主義が悪まれ、「個」の尊重が叫ばれました。そこから生まれる精神面の空白、秩序の無視、特に父親の尻ごみなど、実は個人という抽象的なものは存在せず、人と人の関係上にある「人間」が尊重されなければならず、また幸福の土台となるのは「他人様への奉仕」だと思うようになります。二年がかりで、御存知の「礼」と「譲」の倫理を我が校の校訓としたのでした。三年がかりでようやくうつさらのみこめたと言つて下さった方は、本音です。世に出て、幾多の試練の後に納得できる人の世の真実なですから。

幸いに、この教育思想とそれを基とする教育実践が、現在の世の混沌を救う教育のモデルだと評価されたのです。嬉しい限りです。私もまた頑張ります。同窓の方々、どうぞ支えて下さい。更に平安を祈ります。

懇親会では、三味線を習っている方々の演奏などがあり、なごやかな雰囲気で進みました。今年卒業の男子の同窓生七名の参加があり、みんなの視線は新鮮さと期待とで一齊に彼らにそぞがれました。希望の星にみえたからだと思われます。

総会報告

平成十五年の同窓会総会は、当番学年（卒業年四、五がつく学年）から、かなり思い切った

案がだされ、総会は土曜日の午後五時からということになりました。今までの日曜日の午後よりは集まりやすいということでした。こうして六月二十八日、百三十名の参加でホテルサンルートの四階は、九里丸一色となりました。



平成15年卒の男子同窓生



金屋 文子 (S45年卒)
御夫妻

決断早く、即実行

金屋 慶助

一言で言えば、私にとってベストワーフ、オンラインの妻です。私の仕事がら、帰りは遅く、土日も家を留守にする状況です。家内は勤めを持つ身で、母、妻、嫁、父や世帯主と、何役もこなす頼りがいのある存在でした。そんな妻のお陰で、私自身は思う存分に教育という限りない夢を追うことができ、感謝しています。運動大好き、決断が早く、すぐに実行に移さなくては気がすまない性格、少々の病気ではへこたれない気丈さは、高校時代フエンシングで鍛え、全国大会入賞で得た自信から生まれたものでしょう。また、社会的常識や礼節を大事にし、情にもろく、友人を大切にする心は、私にはない持ち味で、町を歩いても、声をかけられる人が多いことに驚きます。ここにも、校風の「礼・譲」を学び、主体的に生徒会活動に参加したことと関連があるのでしょう。今も同窓会の役員として、先輩と共に学校に足を運ぶのも、心の底に、若き日の楽しさや自分の成長を思い起こすからだと思います。側にいないと本当に困る存在の妻が、昨年手術で家を空けたときは、家中が空虚さを味わいました。これからは、手術した脚を労つて過ごせる様に、二人三脚でゆつたりと歩んでいきたいと思います。

職場訪問

西部乳児園を訪ねて



働くお母さんのために 子供の未来へのお手伝い

「卒業生たくさんいるよ」と伺い、西部乳児園をお訪ねしました。上杉御廟所に隣接し、閑静な住宅街に西部乳児園はあります。副園長の高梨和子(旧姓神尾)さんにお話を伺いました。職員二十一名の内、保育士さん十名が九里の卒業生たとうです。昭和三十八年、三歳児未満保育園として県内で一番早く発足したそう

一言で言えば、私にとってベストワーフ、オンラインの妻です。

私の仕事がら、帰りは遅く、土日も家を留守にする状況です。家内は勤めを持つ身で、母、妻、嫁、父や世帯主と、何役もこなす頼りがいのある存在でした。そんな妻のお陰で、私自身は思う存分に教育という限りない夢を追うことができ、感謝しています。運動大好き、決断が早く、すぐに実行に移さなくては気がすまない性格、少々の病気ではへこたれない気丈さは、

高校時代フエンシングで鍛え、全国大会入賞で得た自信から生まれたものでしょう。また、社会的常識や礼節を大事にし、情にもろく、友人を大切にする心は、私にはない持ち味で、町を歩いても、声をかけられる人が多いことに驚きます。ここにも、校風の「礼・譲」を学び、主体的に生徒会活動に参加したことと関連があるのでしょう。今も同窓会の役員として、先輩と共に学校に足を運ぶのも、心の底に、若き日の楽しさや自分の成長

西部乳児園の同窓生の方々

- ・高梨 和子さん
(S42年卒・旧姓神尾)
- ・金田 泰子さん (S49年卒)
- ・本間まり子さん (S52年卒)
- ・樋口 真紀さん (S54年卒)
- ・鈴木 早苗さん (S55年卒)
- ・渡辺 明美さん
(S58年卒・旧姓落合)
- ・石毛 奈美さん
(H6年卒・旧姓鈴木)
- ・平井久美子さん (H7年卒)
- ・鈴木 聰美さん
(H9年卒・旧姓加藤)
- ・木村 妙子さん (H11年卒)

です。現在園児数は五十六名、生後二ヶ月から預かっています。園内では家庭的な雰囲気で、皆さんハツラツと動いていらっしゃいました。「ひかりあかるくつよいこ よいこ」をスローガンに、「生きる力を育てよう」を目標として、丈夫な体を作り、たくましい心を育て、基本的生活習慣を身につけ、働くお母さんの手助けになればと毎日がんばつております。○歳児には園児二名につき保育士一名、一歳二歳児には三名につき一名、三歳児は六名に一名の保育士がつき、その子の個性を大切に保育を行っています。昔から三つ子の魂百までと言われるよう、三歳までが人間形成の基礎、さまざま人と関わる事で、人の和や思いやりを学んでいくのではないでしようか。そういう意味で今、集団保育が見直されているそうです。人と関わる仕事は苦労もあるけど、それ以上に得られるものも大きい。何よりも皆さん子供が大好き、子供と付き合う事で教えられる事がたくさんあります。担当の先生どうしてますか」「遠藤岩根先生お変わりないですか」などと聞いていました。

ボランティアの心を受け継ぐ

原 ヨシ子さん (S20年卒)
美 恵さん (S56年卒)
祥 江さん (九里2年生)



原さんのお宅を訪ねたのは、雪の降る、一月末でした。寒い外がうそのように暖かい家の中で、おばあちゃんのヨシ子さん、おかさんの恵みさん、そして現在二年生の祥江さんの三人が待っていて下さいました。初対面なのに全員同窓生として、話はどうしても学徒動員に及びます。毎日工場で働いていた事や、山奥から原木を運んだりと、今の私たちには考えられないような高校生活だったそうです。

終戦から六年後に嫁がれた原家のお姑さんが裁縫の先生だつたそうで、取材の私も行方さんもまたびっくり。その頃の生徒さんは、二三十人ぐらいで、若かりしヨシ子さんは子育ての真っ最中、大事な着物地を汚さないように気を遣われたそうです。

お姑さんが亡くなられてから地方事務所の建設事務所に勤務なされ、退職後は民生委員として活躍される一方で、孫の祥江さんたちの面倒をみられ、とても多忙な日々だつたそうです。

恵みさん（旧姓安部）は、昭和五十六年卒業の若いおかさんです。娘の祥江さんは姉妹にまちがえそなくらい似ています。本が好きで図書委員になり、そして図書委員長になられた恵みさんの最大の想い出は、百人一首大会だつたそうです。それまでの百人一首は、希望者だけで行なわれていましたが、美恵さんが委員長の時に生徒会との話し合いで、全校行事のクラスマッチになりました。実習も印象に残っていることの一つですが、もう一つ短大生活では、高校時代より友達に対する思い入れが強くなつたことです。自分の根底に、九里学園での土台があつたからだと思つていま

我家は親子三代九里です

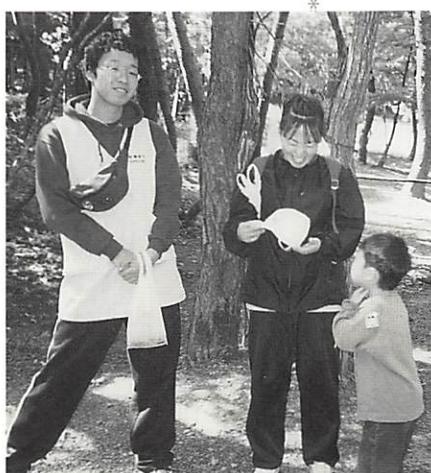
佐々木良典 (H14年卒)

高校を卒業して早二年が過ぎようとしています。そして、自分が今通つている短大も卒業間近になつていています。短大に入学した際、高校とはまったく別物の雰囲気を感じて生活をしていました。特に印象強かつたことは実習があつたことです。自分の通つている短大は幼稚園教諭や保育士を養成する短大なので、短大の付属の幼稚園や選択で地元の保育園での実習があつたのです。この実習では、子どもと直接向き合うことが出来るので、教室で行う講義とは一味違つた楽しさがあります。実習を終えて気付いたことは、まさに「経験値が上がる」と、言うこと

所の建設事務所に勤務なされ、退職後は民生委員として活躍される一方で、孫の祥江さんたちの面倒をみられ、とても多忙な日々だつたそうです。

恵みさん（旧姓安部）は、昭和五十六年卒業の若いおかさんです。娘の祥江さんは姉妹にまちがえそなくらい似ています。本が好きで図書委員になり、そして図書委員長になられた恵みさんの最大の想い出は、百人一首大会だつたそうです。それまでの百人一首は、希望者だけで行なわれていましたが、美恵さんが委員長の時に生徒会との話し合いで、全校行事のクラスマッチになりました。

(S52年卒 高橋有子 記)



合いにより、全校行事のクラスマッチになりました。実習も印象に残つてることの一つですが、もう一つ短大生活では、高校時代より友達に対する思い入れが強くなつたことです。自分の根底に、九里学園での土台があつたからだと思つていま

今田先生

ありがとうございました



皆様の参加を期待しています

同窓生作品展

皆様の参加を期待しています

実行委員の呼びかけにより、学園長の九里先生はじめ、十一名の先生方のご参加と、北は青森県から南は大分県までの五十三名の卒業生の方が参加して下さいました。

ホールで記念写真を撮り、バッハかと見間違うようなヘアースタイルでステージに立たれた、遠藤岩根先生指揮の校歌斎唱で始まりました。

今田先生は、ご自分で和服をお召しになられ、輝くばかりのお姿でした。ごあいさつもユーモアにあふれ、お世話いたいた頃のイメージが一変しました。

各学年からは、ささやかな、しかも趣向を凝らしたプレゼントが贈られ、植物に造詣が深い今田先生は、贈られた赤い長靴にゴム手袋と草取り用のカマをその場で身につけられ、「はい、ポーズ!」。和やかなうちに、名残を惜しんでの閉会となりました。

今田先生、これからも元気で益々輝いて下さい。

(S四二年卒 長谷部恵美子 記)



同窓会では、毎年九里の文化祭にここにやく店と「同窓生の作品展」をしています。今年も趣味でやっているものから、師範の方々の作品まで見事なものがそろいました。生け花、籐蔓、ミニ盆栽などの作品でした。また、飯豊支部の皆さんのが集まつて作つておられる作品も毎年展示されます。

作品からはいつも豊かさを感じさせられます。



平成12年卒

先生に成長した姿
お見せしたい
2003年8月16日

三年程前、仲間内で「いつか皆で同窓会をして、先生達に私達の成長した姿を見せてたいね」という話が持ち上がった。それから有志約十人が集まり、三年の計画・準備期間を経て、二〇〇三年八月、平成十二年卒業生全体の学年会を行つた。当日の参加者は予想より少なかつたものの、青春時代を過ごした思い出の九里学園を訪問したり、久しぶりに会つた仲間や先生達との話に花が咲いたりと、皆の笑顔が飛び交うような楽しい時間が持てたと思う。

また、主催者側や参加者からの「また皆で集まりたいね」という声も多数聞こことができたので、いつかまた今回以上に意義のある学年会を開催したいと思つてゐる。その時には、たくさん卒業生と先生方の参加による充実した時間が持てる場を皆で創つていい。

(H十二年卒 松本あい子 記)

● 今年の同窓会総会は六月二十六日(土)サンルート米沢において午後五時から行われます。当番学年は卒業年に六、七がつく学年です。沢山の方の参加を期待しています。

● 記念音楽会は九月十三日(月)です。演奏者は決定しだいお知らせいたします。

● 今年の同窓生新会員は、男子七十九名、女子一五〇名です。どうか温かく迎えていただきますようお願いいたします。

編集後記

2年ぶりの同窓会報となりました。若い男子の同窓生が新会員となり、会報にも新しい鼓動を感じるようになりました。同窓生の活躍が母校をささえる基です。みなさんの元気を届けたいと編集しています。どうか読んで下さいますようお願いいたします。

